



施設向け

# 感染対策レター

令和5年1月  
第22号

健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 編  
TEL: 044-200-2343



## 施設の新型コロナクラスター増加

高齢者施設等でクラスターが増加しています。2回目、3回目のクラスターが発生している施設も多くあります。レクリエーションをコロナ流行前に近い状態に戻している施設もあります。一度コロナに感染したから大丈夫ではありません。時間の経過や感染した時期の変異株によっては再感染もあり得ます。

## 新型コロナ死亡者急増

川崎市における致死率（年齢階級別）



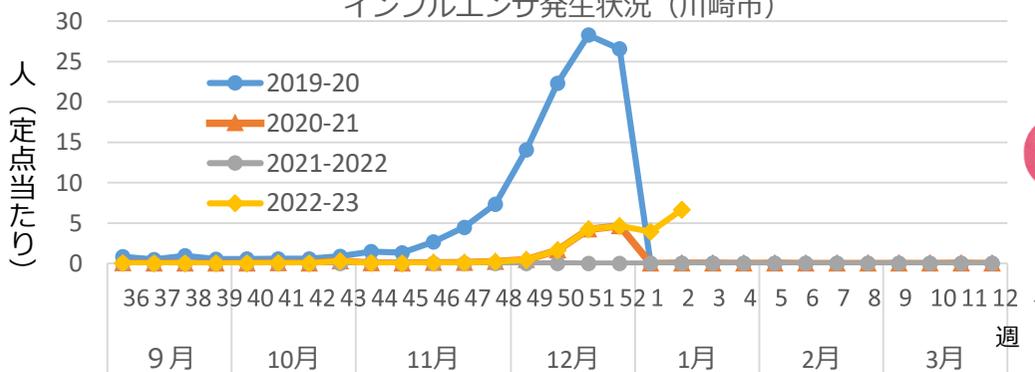
70代以上で致死率は高くなっています。70歳を超えると何らかの基礎疾患を有する人が増えてきます。新型コロナに感染後、持病の悪化や体力低下による誤嚥性肺炎などで死亡している方もいます。

## インフルエンザと新型コロナ同時流行の兆し



インフルエンザは、2020年から流行がみられませんでした。今年は増加しています。学級閉鎖の報告も出てきています。

インフルエンザ発生状況（川崎市）



## 効果的な対策を実施していますか？

オミクロン株は感染力が強いです。アメリカで拡大している変異株XBB.1.5はさらに感染者が増えることが懸念されています。

## チェックリスト

- 換気状態を確認している。  
CO2濃度測定器を使用し、特に、食堂、休憩室、更衣室、混雑する時間帯でも測定し、基準値1,000ppmを下回っていることを確認している。
- マスクなしの場合、人との距離をできるだけ2m空けている。マスクありでも50cm以上空けている。
- ケア時は一時的でも利用者にマスクを着けてもらっている。
- 入浴介助時に使用していたマスクは湿ったり濡れたら交換している。
- 食事介助、口腔ケア時の介助者はフェースシールドまたはゴーグルを着用し、斜め後ろから介助している。
- 食事中など職員間でのマスクなしの会話はしない。
- 面会については、「高齢者福祉施設における新型コロナウイルス感染症拡大防止面会ガイドライン（第4版）」等に沿って行っている。



## 基本は標準予防策

日頃から実施して感染症を予防しましょう。

- 「手指衛生が必要な5つの場面」で手指衛生を行っている。  
①利用者に触れる前 ②清潔/無菌操作の前 ③体液に曝露された可能性のある場合 ④利用者に触れた後 ⑤利用者周辺に触れた後
- 個人防護具の着用は、必要な場面で正しく着用している。
- 患者ケアに使用した機材等の取り扱い  
洗浄・消毒・滅菌が正しく行われている。
- 周囲環境対策 定期的に空気を入れ替えている。1日1回程度、日常清掃を行っている。使用したテーブルなどは使用毎に清掃している。



## オミクロン株対応ワクチンは接種済みですか？

重症化するリスクを大幅に低下させることが報告されています。